

四つの戒め～「呻吟語」より

始めに奮い終わりに怠るは、業を修むるの賊なり。前を緩やかにして後を急にす
るは、事に応ずるの賊なり。躁心浮気(そうしんふき)は、徳を蓄うるの賊なり。疾
言厲色(しつげんれいしょく)は、衆を処するの賊なり。 呂 新吾

今月は、今年2月のブログでご紹介した「呻吟語」から、他の箴言をご紹介したいと
思います。冒頭にある今回の箴言の大意ですが、「はじめは奮闘するが終わり頃には
怠慢になる。これは事業を完遂する際の妨げとなる。先にはのんびりしているが後では
あわてて行く。これは仕事に対応する際の妨げとなる。気持ちが落ち着かずいつも浮
ついている。これは道徳を積み上げていく際の妨げとなる。言葉を荒々しくし激しい顔
つきをする。これは周囲の人々を統率していく際の妨げとなる。」(湯浅邦弘著「呻吟
語」角川ソフィア文庫より)となっています。ここで述べられている四つの戒めは、どれも
現代にも通ずる普遍的な内容を持っていると思われるので、各々見ていきましょう。

まず、最初の戒めですが、これは、事業等を始めるとしばしば起こりうることではあり
ます。最初は新鮮な気持ちで、意気盛んに取り組んでも、その気持ちを継続するの
は、実際にはなかなか難しいことです。そのことを認識し、如何にモチベーションを維
持していくか、それは組織にとっても、個人にとっても大きな課題であると思われま
す。一朝一夕に答えは見つかりませんが、「初心忘るべからず」や「継続は力なり」という姿
勢で、日頃から取り組んでいく必要があるのではないかと思います。

次の戒めですが、私も含め多くの方が陥りやすいものではないかと思います。こうし
た事態にならないようにするためには、一定の見通しを持った上で、計画的に仕事を
進めていく必要があります。ただし、仕事を進めていると、想定外の事態が発生するこ
とが往々にしてあります。そのため、計画的に仕事を進めるとともに、日頃から多少の
余裕やバッファーを持てるように心掛けておくことも大事な点だと思います。

次の戒めですが、一見するといわゆる修身や道徳的な意味合いととらえられます
が、人間の成長や自己実現と考えれば、現代にも通ずる戒めになると考えられます。
いずれにせよ、何事にも浮ついた心持ちでは、仕事にしても、私生活にしても自己実
現を図るための充実した人生を送ることは、難しいのではないのでしょうか。

最後の戒めですが、これは、自戒の念も込め、特に管理者の方には特に心に留め
ていただく必要がある事柄だと思います。以前にもお話しましたが、人間は、ある意味
で感情の動物であり、喜怒哀楽の感情は人間にとって不可欠なものです。しかし、「不
機嫌ハラスメント(フキハラ)」という言葉もあるように、荒々しい言動等を、他者に直接
的に向けることは、結果的に負の影響を職場の人間関係に及ぼすおそれがあります。

怒りの感情の制御等に関しては、「6秒ルール」など様々なアンガーマネジメントが
喧伝されていますが、ハラスメントに該当するような場合を除いて、私が一番大事な視
点と考えているのは、他者への「思いやり」や「共感」です。相手の立場に立って、その
主張や考えをまずは理解するようにし、そのことに異議等があれば、冷静に自己の主
張をする、こういった基本的な姿勢が何よりも大事なことはないかと思います。

令和6(2024)年9月



一般財団法人 かながわ水・エネルギーサービス
理事長 松井 聡 明